

区分・種別	県指定史跡		
名称	いまばりはんしゅのはか 今治藩主の墓		
所在地	今治市桜井		
所有者	個人所有	管理団体	
指定年月日	昭和34年3月31日		
解説	<p>今治藩主松平家の初代・3代・4代の墓所で、古国分山の中腹にある。墓地の広さは約1.8a、それぞれが瓦葺土塀に囲まれ、参道がつけられている。中央の初代<sup>さだふさ</sup>定房の墓は、墓碑の高さ3.6m、石柵で保護され、前面外側に2基の大灯籠があり、幅3.3m、長さ31mあまりの参道の両側にはそれぞれ9基の小灯籠を配している。左の3代<sup>さだのぶ</sup>定陳、右の4代<sup>さだもと</sup>定基の墓はやや小規模であるが、初代のものと類似している。江戸時代前期の大名墓所として代表的な遺跡である。藩祖定房は松平（久松）<sup>さだかつ</sup>定勝の五男、初代松山藩主松平<sup>さだゆき</sup>定行の弟で、延宝4（1676）年、73歳で没した。定陳は兵学者<sup>えじまためのぶ</sup>江島為信を重用し、藩政の整備に努め、元禄15（1702）年、36歳で没した。定基は蒼社川改修事業に着手するなど、その治世は34年間にわたり、宝暦9（1759）年、74歳で没した。</p>		

